



パパイヤ、ランブータン、レイシなど、熱帯地方ならではの果物たちも、EMでたわわに実っています。

日本はもちろん今や世界約130ヶ国のさまざまな場所で活用されているEM。このコーナーでは各国での様子をお伝えします。第一回は稲作を始め野菜や果物栽培がさかんなタイ王国です。1994年に東北部ウボンラチャタ県でスタートしたEMプロジェクトは、タイ国王陛下が提唱する「足るを知る経済」のもと、陸軍の地域活性化指導のひとつとして大きな成果を上げています。

EM技術を農業に取り入れることで作物が安定して収穫できるようになるとともに、国際的な有機農産物認定機関からのお墨付きをもらえるほどに品質も向上。付加価値の高い農産物として取引されることで村も豊かになり、有機農法の取り組みは結果として環境の向上にもつながりました。こうした成果をもとに、地域の学校ではEMの啓蒙活動や技術に関する教育も行われるようになりました。

## 農業はもちろん、 村づくりや人づくり 衛生、環境面でもEMが活躍

EMで地域全体が  
いきいき

津波被災地でも  
パワーを発揮

また、2004年12月のスマトラ沖地震によって津波の被害を受けたタイ南部被災地での衛生活動でもEMが大活躍しました。安全・安心なEMパワーが悪臭を分解し、環境浄化を促進。その効果は高く評価され、バンコク住宅公社においても環境保全プロジェクトにEMが採用されるなど、さまざまな取り組みが各地で実施されています。また、この波は国内にとどまらず東南アジア、南アジア地域、さらにはオセアニア地域へのEM普及のきっかけともなり、各国で畜産廃棄物処理、工ビ養殖、都市ゴミの悪臭対策、有機性ゴミの堆肥化、汚水処理など、幅広くEMが活用されています。

「ほほえみの国」と言われるタイ。そのほほえみの輪は、まさにEMによってさらに大きく広がろうとしているのです。



EMはさまざまな場所で活用されています。



学校から地域へ、EMの知恵が伝えられています。